

半導体漫遊記

湯之上隆

56

東北大学工学部の江刺正善教授の最終講義および祝賀会が、3月15日、仙台の江陽グラウンドホテルにて開催された。

江刺先生は、MEMS (Micro Electro Mechanical Systems) と呼ばれる微小電子機械システムの世界の権威者である。その江刺先生が、なぜか私の著作物に興味を抱いてくださったことがきっかけで、一昨年江刺研究室の非常勤講師を務めさせていたであり、私もこの催しに出席した。

「最強の研究室」の江刺東北大教授

企業の相談に即答

近くが企業からの出席者だったことに驚いた。このような最終講義を見たことが無い。

江刺先生は最終講義の中で、「大学にいる私は公僕です。大学の先生はサービス業なんです。だから企業の方」

江刺研究室が「最も役に立つ研究室」という結果になったという。その結果を基に、「東」

江刺先生は最終講義の中で、「大学にいる私は公僕です。大学の先生はサービス業なんです。だから企業の方」

江刺先生は最終講義の中で、「大学にいる私は公僕です。大学の先生はサービス業なんです。だから企業の方」

江刺先生は最終講義の中で、「大学にいる私は公僕です。大学の先生はサービス業なんです。だから企業の方」

江刺先生は最終講義の中で、「大学にいる私は公僕です。大学の先生はサービス業なんです。だから企業の方」

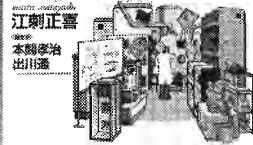
江刺先生は最終講義の中で、「大学にいる私は公僕です。大学の先生はサービス業なんです。だから企業の方」

には人を引き付ける魅力がある。それは以下のようなエピソードからもうかがうことができる。

最終講義の出席者の6割が企業人になってきたのは、それだけ多くの企業から江刺先生の指導を受けたからである。その上、江刺先生

最終講義の祝賀会で記念品を受け取る東北大学の江刺正善教授(右)

東北大学・江刺研究室最強の秘密



の依頼を受けたころ、MSの技術を使って放射線検出器を作れないか検討していた。そこで、「ME」ところ、深夜にもかか

わらずたちどころに文献が送られてきた。これには本当にびっくりした。

これだけ多くの企業人が最終講義に出席したのは、指導を受けた恩もさることながら、このような江刺先生のお人柄にほれた方が多かったからではないか。何を隠そう私もその一人である。そんな江刺研究室の非常勤講師であつたことを心から誇りに思う。

江刺先生は東北大学工学部を退官されるが、同大学の原子分子材料科学高等研究機構の教授は継続されるとのことである。今後ますますのご活躍を祈念する次第である。(半導体技術者・社会学者)



最終講義の祝賀会で記念品を受け取る東北大学の江刺正善教授(右)